

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4078800101
法人名	社会福祉法人 やまと医正会
事業所名	グループホーム 敬和苑
所在地 (電話番号)	福岡県柳川市大和町栄220-2 (電 話) 0944-76-5555
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成21年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤	0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) 改築
建物構造	木 造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,400 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(平成21年9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千蔵医院、二ノ宮歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲の田んぼ・畑の間には用水が流れ、季節の草花が咲くのかな風景の中に特別養護老人ホーム、ケアハウス、ディサービスセンター等の複合施設の一角に当ホームは位置している。グループホームと他の施設の中庭には大きな桜の木があり、季節には見事な桜花の下で利用者は花見を楽しんでいる。キッチンを中心につながつた2つのユニットは、利用者は自由に行き来して過している。ホームでは排泄介護を重点的に取り組んでいる。排泄チェック表で各自の排泄リズムを把握し、上手にトイレに誘導している。また、水分摂取を促し、繊維質の食べ物を多く取り入れたり、運動や腹部マッサージを行う等、自然排便できることを大切にしている。その結果、現在では夜間でもオムツを使用する利用者はいない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	実質的にグループホームを管理している計画作成担当者が法人の人事異動で今年の4月に交代し、引継ぎが十分になされていないため、前回評価での改善課題の大半が改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価項目の担当を決め、それぞれが日頃の業務を振り返りながら評価を行い、責任者が取りまとめた。出来上がった自己評価票は職員に配布し全員で内容を確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市の福祉課長、老人会長、民生委員、区長、家族代表、ホーム代表をメンバーとして2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では写真を見ながらの行事報告やホームの取り組みを報告し意見交換・情報交換を行っている。意見があった場合は全職員で話し合い、取り組めるところから取り組みサービス向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	3ヶ月に1回発行する写真を中心とした苑だよりでホームの行事や取り組みを家族に知らせている。ホーム利用料は原則として事務所支払いになっているので、支払い来訪時や随時の訪問時にホームに対する意見や苦情・不安を聞いている。苦情等があれば職員間で話し合い、また、申し送りノートに記録して情報を共有している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は月1回来訪する地域のボランティアグループと一緒に、季節の飾り物を創作するのを楽しみにしている。また、地域の夏祭りや老人会のサークル発表会に参加したり、園児や小学生の訪問もあり、幅広い交流を行っている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念に加え「地域の方々と交流を深め、家庭的な環境の中で共に生きていく」との、地域密着を意識したホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所及び各ユニットのリビングに掲示し、基本理念である3S(スマイル、スピード、サービス)が日々の支援の中でできているかを夕方の申し送り時に振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアグループの訪問を月1回受け入れ、利用者と”うちわ”等、季節のものを作成し交流している。また、老人会や幼稚園児・小学生との交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員に担当箇所を決めて割り当て、各ユニットのリーダーが取りまとめている。自己評価票及び外部評価結果は誰でも閲覧できるように玄関に各種資料と共に置いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催している。メンバーは市の福祉課課長、老人会長、民生委員、家族代表、区長、職員でホームの状況や行事を写真を交えて報告し、率直な意見交換を行っている。「生活の活動性を高めて欲しい」との意見が出たときは全職員で話し合い、取り組めることから実践している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の要請で「認知症サポーター養成講座」の講師を管理者が引き受けている。また、利用者の介護保険更新時等には市の担当者を訪ね、意見交換をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については入居時に家族及び本人に説明を行っている。また、外部の研修を順次受けているが、研修の内容については他の職員に伝達研修している。資料を事務所と玄関に置いている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回苑だよりを発行している。また、利用料の支払いは原則として施設窓口支払いになっているので、利用者一人ひとりのアルバムを作成し、家族の来訪時に見せるとともに日頃の様子を報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話で話す機会を捉えて、意見等を聞くようにしている。各居室に連絡ノートを設置し、気がついたことや意見等記入してもらうようにしている。また、利用者の様子も担当職員がその都度記入している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人による4月の人事異動の他に不定期な異動があるため、利用者が不安になる等の影響がでており、家族からも「引継ぎをしっかりと欲しい」との意見がでてくる。	○	利用者と職員のなじみの関係が、利用者の穏やかな生活を構築する基本であることを踏まえ、利用者へのダメージを最小限にとどめるような配慮が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除する事はないが、夜勤の可否は面接時に聞いている。また、職員に対しては休みの希望は可能な限り取り入れられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の法人全体の会議やホーム内の会議で人権尊重に関する知識を深めている。日々の業務の中でも気が付いたときは、お互いに注意するようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会や法人内の他のグループホームとの研修会で交代で研修発表を行っている。業務でわからない事は先輩職員に聞いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームと交流を行っている。	○	法人内のグループホームだけではなく、県内のグループホームで組織しているグループホーム連絡協議会に加入する等して、研修会参加や同業者との交流を通じてサービス向上に取り組まれることが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅を訪問し、本人及び家族から生活歴等を十分に聞くようにしている。法人内の他の施設を利用している人に対しては、家族と相談してホームで食事したり、お茶を飲んだりして場の雰囲気に慣れてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の大先輩である事を認識しており、共に過ごし支えあう気持ちで接している。その上で野菜の皮むきや料理の味付け、おやつ作り、花の手入れ等共に行い支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人及び家族から生活歴や希望、意向を開き取っている。また、おやつの時、洗濯物を職員と一緒に畳むとき等、日常関わる中で把握するようにしている。困難な場合には表情や動作から汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用したり、スタッフの意見を聴きながら十分なアセスメントを行い、本人や家族のニーズを大切に担当スタッフや関係者で十分に話し合い、介護計画書を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月ごとに評価を行い、介護計画の見直しをしている。見直し以前に状況に変化が見られた場合は、必要な関係者と話し合い現状に合った介護計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の為に外出に職員が同行したり、理美容では「なでしこ会」の協力を得て、ホームで整髪を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医への支援を行っている。内科については、ホームの協力医による週1回の受診があることで、本人の希望により変更される方もいる。歯科受診についても協力医との連携があり、受診支援をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期もホームで過ごしたいとの希望があり、利用者、家族とも十分に話し合いをして、担当医、看護師、職員が方針を共有しながら、職員は学習を深め、対応できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に優しく、親しみを持って家族同様に接している。毎月の勉強会では利用者の尊厳を大切に話し合い、気づいた改善点はお互いに注意し合って改善するようにしている。個人の記録等は職員室で保管、管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝遅く起きる方、夜遅くまで起きている方などには、その方のペースに合わせて朝食を提供したり、夜は話を聞いたり、一緒にお茶を飲んだりして、一人ひとりの生活パターンを大切に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に調理の下準備をしている。職員も利用者と同じテーブルで同じ物を一緒に和やかに共に食事を楽しんでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後を入浴とし、一人ひとりの体調に合わせて入浴を行っている。楽しく入浴が出来るように入浴剤で変化をつけているが、日頃から入浴拒否の強い方には無理強いをせず、声掛けを工夫したり、本人が気が向いたときに入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なこと、趣味等を把握し、カラオケ、ぬり絵、書き取りなど楽しんだり、洗濯物を綺麗に畳んだり、気分転換や楽しみごとの支援をしている。98歳の男性の方がお謡いを声高らかに手踊りつけて謡い、周りで他の方たちが一緒に謡ったり、手拍子をされていた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花を見に出かけている。いつでも広い苑庭やウッドデッキで外気浴をしたり、楽しむことができる。利用者の希望を聴き、ドライブにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠をしていない。利用者が一人で出かけた時は、職員がそっと近づき、同行している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は隣接した母体施設と合同で年2回、火災を想定した訓練を行っているが、利用者と一緒に災害訓練は行っていない。	○	職員のみではなく、消防署の協力を得ながら、利用者を建物の外に避難誘導しての訓練を行うことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスの良い献立をたて、利用者の食事の摂取量や水分摂取量を毎食チェックしている。摂取量が少ないときは医師に相談して、高カロリーの補助食品を提供したり、好きなものを食べてもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは明るく、リビングには天窓からの光が温かく、広いウッドデッキには椅子があり、いつでも花壇を眺められる。リビングにはソファが数箇所設置され、それぞれ自由に過ごすことができる。季節の花や野の花が玄関やテーブルに飾られ、居心地良く過ごせる工夫がされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームの備品であるが、寝具やその他家具等は本人が入居前から使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。毎月、季節にちなんだ手作りの作品が飾られ、居心地良い居室になっている。		